Tohoku Univ.
Dept. Hematology and Rheumatology

血液免疫科 ニュースレター

Vol. 22
（2017年5月）

【発行元】　東北大学　血液・免疫病学分野　（東北大学病院　血液免疫科）
Address: 〒980-8574　仙台市青葉区星陵町1-1　Tel: 022-717-7165 / Fax: 022-717-7497
Homepage: http://www.rh.med.tohoku.ac.jp/

巻頭言

今年の桜は愛でる間もなくあっという間に散ってしまったような気がしますが，新年度は桜に関係なく暦通りに始まりました．その新年度のまさに初日の4月1日に亀岡淳一先生の東北医科薬科大学第三内科（血液・リウマチ科）教授就任祝賀会が，100名を超える第二内科OB・医局員の先生方のご参加をいただき盛大に開催されました．亀岡先生に心よりお祝い申し上げるとともに，ご出席賜りました先生方に深く御礼申し上げます．

さて，医局にも新たなメンバーが加わりました．いずれも，優秀で人間的にも素晴らしい新メンバーです．本号ではそれぞれの自己紹介がありますので，名前と顔を覚えていただき，機会がありましたらお声掛けいただきますようお願い申し上げます．

昨年度は，藤原亨先生の医学部奨学賞金賞，白井剛志先生の奨学賞A賞に続き，加藤浩貴先生が東北大学総長賞を受賞するなど，当科にとってうれしいニュースが続きました．臨床面でも，診療患者数，移植数，治験数，いずれも例年以上の実績をあげただけでなく，全国的な臨床研究の事務局を担当するとともに，それぞれの先生方が研究会・講演会の講師として全国からお声がかかるようになりました．医局員の献身的な努力に感謝するとともに，その成長をうれしく思っています．

個人的には今年，教授になってから10年目の節目を迎えます．再任評価のために10年間の実績をまとめたところですが，それなりにできたかなと思うところはあるものの，やはり満足できるところまではきていません．重要な責務とはいえ，やはり病院・研究科の運営や学会などの社会活動に時間を取られていることは否めず，研究・臨床・人材育成に十分なエフォートを費やせていないと感じています．

5月の連休明けから国際鉄バイオサイエンス学会に行ってまいりましたが，鉄のスペシャリストが集まり，鉄という一つのテーマで議論するという濃縮した時間は，久しぶりに学問にどっぷりと浸かった幸せな時間でした．そこで感じたことは，スペシャリストの研究の深さと集中です．研究はひとつひとつ埋めるべき穴をうめ，得られた結果の再現性を取り，自分の仮説に合致しない結果を真摯に受け入れ，公平な考察をし，第三者の批評を受けて初めて形になります．妥協をすればそこそこでまとめることはできますが，突き詰めた研究でなければ永続的に残る論文にはなり得ません．

私が進めている研究はごく限られた領域ですが，それでも私の残りの任期中に完結することはないでしょう．医局の若手諸君にも，時間がかかっても妥協することなく自分の定めたテーマを極めつづけることを求めていきたいと思います．そのためには，まず，臨床であれ，研究であれ，自分にとって向かい合うに足るテーマが見つけられることを祈っています．

（張替　秀郎）

今号の内容

巻頭言	p1
新入局員あいさつ	p2-3
学会報告	p4-5
イベント報告	P6
関連病院探訪	p7
人事異動	p8

新入局員あいさつ

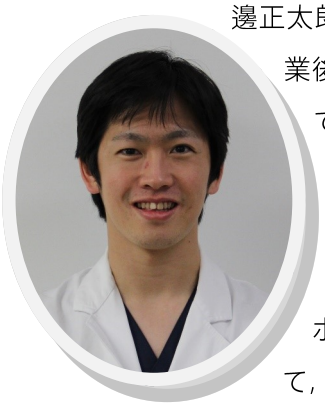
大地　哲朗　先生（血液）

4月より東北大学血液免疫科に入局致しました大地哲朗と申します．大学時代はラグビー部に所属していました．平成22年に東北大学を卒業した後は地元　広島県の土谷総合病院で初期研修を行い，平成24年4月からは広島赤十字・原爆病院　血液内科部で主に白血病の化学療法を経験して参りました．この度母校に戻って参りました理由は広島東洋カープの25年ぶりのリーグ優勝を無事に見届けたから・・・ではなく，強化した化学療法によって治る方，治らない方を診ていくにつれてその差に疑問を抱き，臨床とは別の研究というアプローチに興味を持ったからです．漠然とした動機ですが，張替教授をはじめとした先生方に暖かく迎えて頂き感謝しております．少しでも早く皆様のお役に立てるよう精進して参ります．御指導の程，よろしくお願い致します．

永井　泰地　先生（免疫）

初めまして，永井泰地と申します．仙台第一高校から秋田大学へ入学し，初期研修修了まで宮城を離れましたが，内科ローテーターとして昨年度から東北大学病院に勤務し，血液免疫科に入局を決めました．　学生時代に某上級医に「全身各臓器が診れるようになりたい」と話したところ，「スーパーマンになりたいんだね」と返されたことを今でも覚えております．免疫・膠原病は臓器の名が付かない領域で，多臓器で多彩な症状を呈する場合もあれば，無症状のまま障害が進行する臓器もあります．必要な知識の広さ，心技体の強さに時折呆然としつつ，一歩ずつ知識を蓄えようと研鑽して参ります．　先生方の助けを借りながらいつの日かスーパーマンになるべく頑張ります．よろしくご指導，ご鞭撻のほどをお願いいたします．

渡邊　正太郎　先生（血液）



4月より血液免疫科に入局させていただきました渡邊正太郎と申します．東北大学医学部を卒業後，東北大学病院での初期研修を経て，現在は後期研修としてお世話になっております．血液免疫科の先生方には学生実習の時分からお世話になっておりまして，初期研修の際もホスト診療科とさせていただきまして，たくさんのアドバイスを賜りました．その中で血液疾患の奥深さや先生方の熱意に触れ自分もその一員として血液疾患の診療に携わりたいと強く感じ，入局させていただいた次第です．まだまだ未熟者ではございますが，今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます．

井樋　創　先生（免疫）

今年度より東北大学血液・免疫科に入局させていただきました井樋創（いとい・そう）と申します．2014年信州大学卒業後，塩釜市にあります坂総合病院で初期研修を経てこちらに参りました．初期研修ではメジャー内科を中心とした研修であった分，免疫科の患者さんを診るのは高いハードルを感じますが，さまざまな症候を一つの病態から考察するという点において，これ以上ない学びの場と感じています．一日でも早く先輩方に追いつけるよう，日々の診療に励んでいきたいと思っています．まだまだ若輩者ですが，ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします．

佐野　沙矢香　先生（血液）

本年度より東北大学血液免疫科に後期研修医として入局致しました佐野沙矢香と申します．

仙台市立病院での２年間での初期研修期間を経て，半年間大崎での研修の後，東北大学病院でお世話になることになります．

私は大学５年次での初めてのBSLの実習先が血液免疫科でした．３週間の血液内科の実習が終わるころには，知識が不足しているなりにも血液の楽しさをなんとなく実感し，血液への関心をもちました．翌年度の高次修練でもお世話になり，CAEBVの症例やMDSを合併したベーチェット病の症例等貴重な思い出深い症例を担当させていただきました．研究会での発表等も経験させて頂き，いろいろな経験をさせていただく中で血液への興味が深まったように思います．２年間の初期研修を終えてやはり血液免疫科を志望し，戻ってまいりました．

日々自己研鑽を怠らず学び続ける姿勢を忘れずに，仕事に励みたいと思います．御指導のほどよろしくお願い申し上げます．

2017年3月某日　病棟での一コマ

学会報告①　～医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ～

日本内科学会総会と平行して今年も「医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ」が4月15日（土），東京にて開催されました．例年，当科にて実習・研修を行った学生・研修医のなかから有志数名が演題を発表していますが，今年は血液から1名（6年生　櫻井一貴君），免疫から3名（6年生　花岡理以沙さん・山内昂也君，研修医　後藤悠輔先生）が発表を行いました．

櫻井君は「再発難治性濾胞性リンパ腫の経過中に初感染と考えられる重症水痘症を発症した1例」について発表を行いました．種々の免疫低下状態において，時に内臓病変を合併した重症のVZV感染が発生することが知られていますが，本例は早期の治療介入によって救命できた貴重な症例でした．座長の先生が驚くほどの秀逸な発表と討論を繰り広げ，優秀演題賞を受賞することができました．

花岡さんは「無菌性下顎骨髄炎が先行した高安動脈炎の一例」，山内君は「難治性高安動脈炎を疑われた大動脈血管内膜肉腫の一例」，後藤先生は「間質性肺炎を合併した強皮症の治療経過中にANCA関連血管炎を発症した一例」という演題名での発表でした．この会は，“医学生・研修医のことはじめ”となっていますが，比較的（というかほぼ）研修医による発表でして，その中でも花岡さんと山内君は（研修医以上に!?）しっかりとした発表・質疑応答を行っており，同行した城田先生と私は”堂々としているね”と感服しきりでした．後藤先生は，さすが後期研修医の余裕を感じさせる発表を見せてくれました．

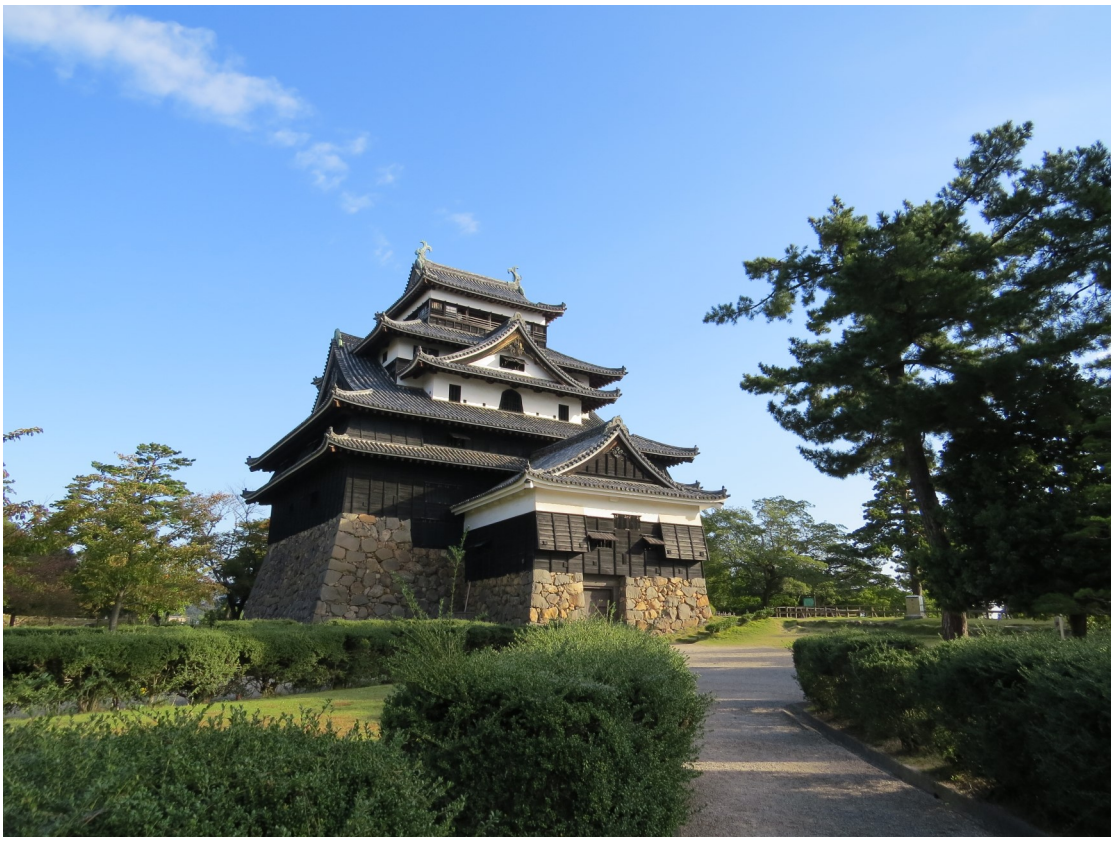
例年思うことでもありますが，今年も皆さんよく勉強して準備を行っており，堂々たる発表を行っていました．皆さんの今後の活躍が楽しみです．こういった学会に参加する機会は，医学生の時にはあまり多くありませんので，興味のある学生さんがいるようでしたら当医局までご連絡ください！

（市川　聡，白井　剛志）

学会報告②　～第39回日本造血細胞移植学会～

第39回日本造血細胞移植学会が2017年3月2～4日，島根県松江市で開催されました．前半は雨が降ったり止んだりの天気でしたが，後半はよく晴れました．もともと天気が変わりやすい地域とのことで，コングレスバックの変わりに折りたたみ傘が配られたのが印象的でした．テーマは『Passion for Hematopoietic Cell Transplantation』，会長吾郷先生の移植への情熱が伝わる学会でした．今回，特徴あるシンポジウムとしては高齢者への移植，地方での移植医療への取り組みなどがありました．東北大学も拠点病院の現状，今後のあり方について発表を行いました．また，血液免疫科の小林先生は自己免疫疾患合併例に対する臍帯血移植の有効性，八田先生はAITLに対するupfrontでの自家移植の有効性について口演発表を行いました．看護部門では東14階の角田副師長がシンポジストとして東北大学病院の看護ケアについて発表しました．最終日には私のレジデント時代のオーベンである峯石真先生と共に米国のJohn　Levine先生，神田善伸先生を囲んだ若手特別セミナー，前処置のシンポジウムを担当させていただきました．最新の臨床研究から，年齢や疾患，移植ソースごとに最適なレジメンが紹介され，前処置とGVHDの関係や人種間の違いなどについても活発な議論が行われました．市内は松江城を中心とした綺麗な街並みで，山陰のよさは木村先生主催の懇親会（和食→イタリアン）でも味わうことができました．国宝に指定された松江城の天守閣から眺める宍道湖は大変素晴らしく，あまり訪れることができない地方都市を知ることができるのもこの移植学会の魅力の一つだと実感しました．

（大西　康）



松江城（無料素材www.photo-ac.comより）

イベント報告

～亀岡淳一先生　東北医科薬科大学内科学第三（血液・リウマチ科）教授就任祝賀会 ～

医学教育推進センター准教授の亀岡淳一先生が，平成29年4月から東北医科薬科大学内科学第三（血液・リウマチ科）教授に就任されるにあたり，去る4月1日（土）に教授就任祝賀会が勝山館にて行われました．当科スタッフ，関連病院スタッフに加え，腎臓高血圧内分泌科の先生方も多数参加され，総勢100名超での盛大な祝賀会となりました．伊藤貞嘉先生，佐々木毅先生，張替先生の祝辞に始まり，石澤賢一先生（山形大学第三内科教授）や菅原知広先生（栗原市立若柳病院院長），遠藤一靖先生（元仙台市立病院院長）など諸先生方のご挨拶の中では，亀岡先生が入局された頃のエピソードなども交えてお話があり，我々若輩としては当時の医局や病棟の様子の一端を窺い知ることのできる貴重な機会ともなりました．

亀岡先生は様々な疾患や病態に精通されていて，カンファレンスでも希少疾患の経験例などについて貴重なご意見を頂けることが屡々でした．また小生は学生の時分に，亀岡先生の症例に対するアプローチの仕方や姿勢に薫陶を受けたことが，血液内科医を志すきっかけとなりました．そして，専門外でも学術的なことから芸術的なことまで様々なことに精通されていて，色々な面でご指導ご教示を頂きました．今後の亀岡先生の新天地でのご活躍を心より祈念しております．

（市川　聡）

関連病院探訪　～第3回　山形市立病院済生館　血液内科～

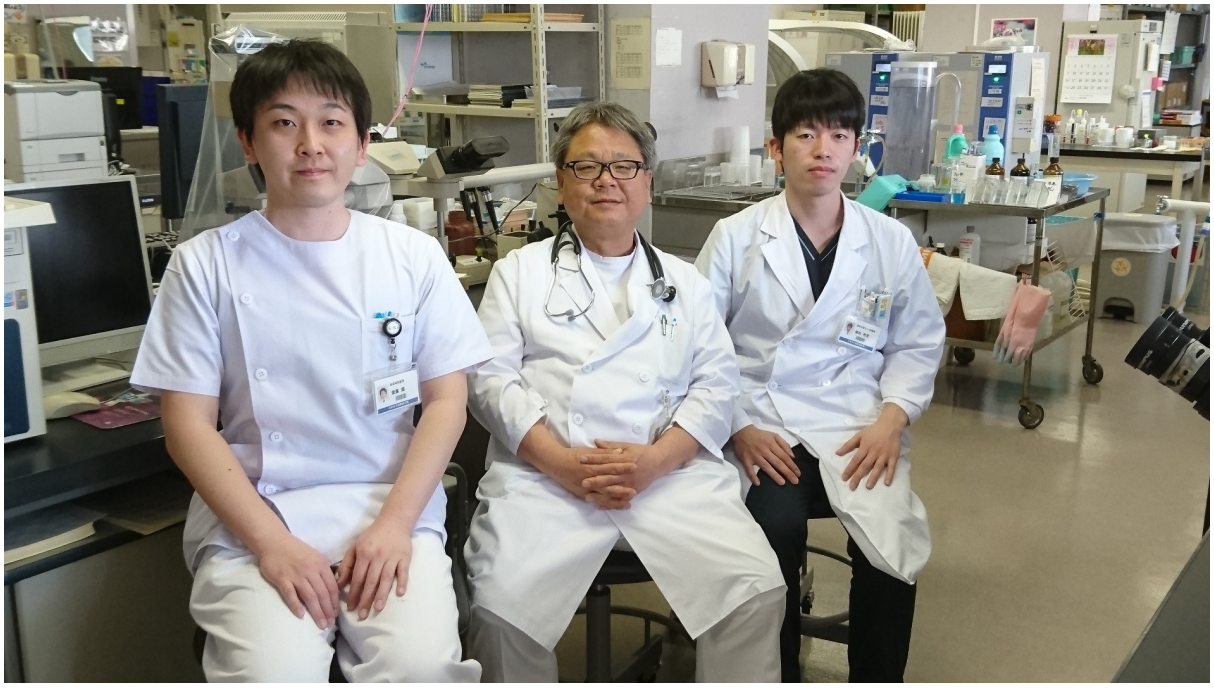
山形市立病院済生館血液内科は木村淳内科長，斎藤陽のスタッフ2人で診療にあたっています．当科は主に7階東病棟で診療を行っています．腎臓内科，泌尿器科との混合病棟ではありますが，クラス100のクリーンルーム2床を含む全17床となっています．

疾患は悪性リンパ腫，急性白血病，多発性骨髄腫など血液一般の疾患を扱っています．2016年度に当科に入院された患者さんは，年齢中央値76.5歳(18歳～99歳)と幅広い年齢ながらも，ご高齢の方が多くなっていますので，血液疾患そのものはもちろん，認知機能や併存疾患との兼ね合い，家庭環境も含めた全人的な治療の大切さを痛感させられます．

自家末梢血幹細胞移植は年間1～2例行っておりますが，同種移植適応症例に関しては，東北大学病院血液・免疫科，山形大学医学部附属病院血液内科にご紹介させていただいております．近年，両大学との連携はより密になっており，東北大学からは張替教授，大西先生が，山形大学からは石澤教授，猪倉先生が応援に来てくださり，症例検討も盛んに行っております．

当院は山形市の中心部に位置しており，仙台から自家用車で1時間ほどになります．公共交通機関もJR仙山線のほか，山形ー仙台間の高速バスも15～20分間隔で出ており，アクセスは良好です．なお，病院の近隣には飲食店がたくさんあり，山形の美味しいお酒や料理が味わえます．当科の木村科長からの紹介がありますと，さらに特別なご馳走に出会えるかもしれませんので，山形にお立ち寄りの際はぜひご相談ください．また，当院は診療科間の連携も密で症例も豊富ですので，研修病院としてもよい病院であると思います．山形での研修にご興味のある医学生の皆さん，ぜひ一度，病院見学にお越しください．

（齋藤　陽）



左より　斎藤　陽 (血液内科)，木村　淳 (血液内科)，植田　怜男 (初期研修医)

人事異動

この春の当科および関連病院の主な人事異動をご報告させて頂きます.

【異動】

亀岡　淳一　先生：　東北大学大学院医学系研究科　医学教育推進センター
　→　平成29年4月　東北医科薬科大学医学部　内科学第三（血液・リウマチ科）　教授

突田　真紀子　先生：　血液・免疫科　助教　→　平成29年5月　仙台市立病院　血液内科

八田　俊介　先生：　血液・免疫科　特任助手
　→　平成29年4月　国立がん研究センター中央病院　血液腫瘍科　がん専門修練医

氷室　真仁　先生：　血液・免疫病学分野　大学院生　→　平成29年4月　仙台市立病院　血液内科

加藤　浩貴　先生：　血液・免疫病学分野　大学院生
　→　平成29年4月　東北大学病院　輸血・細胞治療部　医員

長谷川　慎　先生：　血液・免疫病学分野　大学院生
　→　平成29年4月　山形大学大学院医学系研究科　内科学第三講座　病院助教

木幡　桂　先生：　仙台市立病院　血液内科　→　平成29年4月　東北大学病院　緩和医療部　助教

那須　健太郎　先生：　南三陸病院（MMBクリニカルフェロー）　→　平成29年4月　MMB　助教

【入局】（平成29年4月）

大地　哲朗　先生：　医員

永井　泰地　先生：　医員（後期研修医）

井樋　創　先生：　医員（後期研修医）

渡邊　正太郎　先生：　医員（後期研修医）

佐野　沙矢香　先生：　医員（後期研修医；平成29年4月～9月　大崎市民病院　血液内科）

加藤　愛実　さん：　技術補佐員（平成29年3月～）

The moment in full bloom at the street corner